

Strategy-based listening activities for R&L “Getting Personal”

(ストラテジーに基づいたリスニングアクティビティー)

中島 優子

Teaching Process と Teaching Product

学生のリスニング力を向上させるためには、どのような授業をすればよいであろうか。リスニングの授業では通常、内容や問題の解答 (Product of Listening) にポイントを置いた授業形態が多いと思われる。しかしながら学生のリスニング力を向上させるために本当に教えなくてはいけないことは、上手に英文を理解していくためのリスニングの過程・方法 (Process of Listening) であろう。従って本発表では、学生が英文を理解する過程とそのコツ、つまり学習者ストラテジーに注目し、その理論的背景を踏まえた上で、ストラテジーに基づいたリスニングアクティビティーを紹介した。

理論的背景

多くの研究から、学習能力の高い学生と低い学生が使用しているリスニングストラテジーには違いがあることがわかっている。学習能力の高い学生の代表的な特徴としては、1) 自分が使っているリスニングストラテジーを自覚していて、自分がどのようにリスニング問題に取り組んでいるかについて報告できる (O' Malley & Chamot 1994)、2) 様々なアクティビティーにどのストラテジーが適しているかがわかっていて、その時々でストラテジーを使い分けることができる (Chamot 1995) などが挙げられる。一方、立教大学の学生は、限られた種類のストラテジーを常に使う傾向にあることがわかっている (Nakajima 2001)。この結果が示唆することは、立教大学の学生がリスニングの力を伸ばすためには、色々な種類のリスニングストラテジーを様々な組み合わせで使う練習が必要であるということである。

ストラテジーに基づいたリスニングアクティビティー

本発表で紹介したリスニングアクティビティーは、立教大学 R&L コースで使用しているビデオ教材 “Getting Personal” を対象にしている。しかし、ストーリー性があり 3 分以上の長さのリスニング教材であれば、このアクティビティーを応用することが可能である。

アクティビティー 1 :

これから聞く話がどういう構成になっているのか、教科書の問題などをヒントに想像する。(使用するストラテジー：全体の構成を意識する、内容に関連した情報から単語や内容を推測する。)

リスニングを苦手とする学生は知らない単語や発音など細部に気を取られて、全体を聞き取ろうとすることができない傾向がある。リスニングの前に、談話全体を意識することによって、全体の構成を考えること (Top-down view) が出来るようになる。

アクティビティー 2 :

ビデオが止まったらそれまで理解していたところを頭の中で整理する。(使用するストラテジー：部分的に自分の理解を確かめる、まとめを作りながら進む。)

話の切れ目でビデオを止めることによって学生は内容をまとめる余裕ができ、さらにそれまでの話の展開も把握できる。また、リスニングの時間が短いので英語に集中することができるようになる。リスニングが早くて内容についていけないという学生に適した練習である。

アクティビティー 3 :

これから話がどう展開していくのかを想像する。(使用するストラテジー：全体の構成を意識する、決まったポイントに注目する、背景知識を利用する。)

それまでの内容に基づいて、これからの話の展開を想像することが出来る。先を想像することによって、より能動的に話に入り込むことが出来るようになる。想像は間違っても問題は無い。

アクティビティー 4 :

その日に練習したリスニングストラテジーについて自己評価する。(使用するストラテジー：自分が使ったストラテジーの自己評価をする、自分の問題点を認識する。)

その日に練習したストラテジーを上手く使うことが出来たか、出来なかったか、それはなぜか、どうすれば上手く使えるようになるかを学生に自己評価させる。自己評価することによって、自分の弱点を把握し次回の課題へとつなぐことができる。

結び

Teaching Process の大切さを念頭に、これからもストラテジーに基づいた英語教育を授業に応用し、学生の学力向上に貢献したいと思う。

なかじま ゆうこ (本学ランゲージ・センター英語嘱託講師)